

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1194300248		
法人名	株式会社 ワイグッドケア		
事業所名	グループホーム 五感の里 本庄早稲田		
所在地	埼玉県本庄市北堀1931-1		
自己評価作成日	令和5年9月15日	評価結果市町村受理日	令和5年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和5年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な環境の中、ご利用者様が安心して穏やかに生活できるよう、職員が意識して実践しております。コロナの影響も5類に引き下がり、外部との交流もすこずつですが増やせるようになってきました。現在家族様との室内での面会、外出（散歩や食事など）、外泊なども感染対策に気を付けてもらいながら行っている状況です。日々の生活では、ご利用者様の残存の能力に留意しながら、日課や作業を手伝って頂き、日々生きがいとやりがいを持ってよう支援しております。また、毎月のイベントや機能訓練を多く取り入れることにより、職員の働きがいと、ご利用者様の驚きや楽しみなどの生活のメリハリの機会を作っております。職員の離職率が低いこと、ご利用者様も見慣れた職員で安心した生活を送れる環境となっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

・「住み慣れた地域で尊厳のある支援を行う」の理念に基づき、自宅で過ごしているような自己決定や選択の自由が尊重され、利用者一人ひとりに適した支援が行われている。市主催の認知症の啓発イベントに参加され、世界アルツハイマーデーには利用者の作品を展示するなど、地域との関係継続に努められている。
 ・運営推進会議は、対面での会議が再開され、多方面の参加を得て利用者として事業所の状況報告だけでなく、地域の高齢者に問題が生じる前に気付くことを目指した、地域へのお手伝いなども議題に上がるなど、地域密着型サービスならではの貢献が図られている。
 ・目標達成計画は、担当職員が月1回のお便りでの利用者の様子を伝えることにより家族からの反応や意見をいただけていること、来訪の制限が無くなり利用者家族との面談が増えたこと、年2回の避難訓練と共に避難場所や職員連絡網を含んだ災害対策が作成されていることから、目標達成への取り組みが伺える。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	ホームの理念に「住み慣れた地域で尊厳のある支援を行う」とあり、会議や申し送りでも共有し、日々の援助やイベントにて実践を行っている	「住み慣れた地域で尊厳のある支援を行う」の理念に基づき、自宅で過ごしているような自己決定や選択の自由を尊重するために、利用者の思いを汲み取って記録に残し、職員が共有することで、一人ひとりに適した支援が行われている。また、集団への参加を無理強いすることも無い。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前まで外部参加型のイベントを増やしたり、地区のイベントやオレンジカフェを中止していましたが再開しました。交流の機会を増やし地域との連携につなげていっています。	季節の花見やお祭り、オレンジカフェなどの催しが再開されたことで、地域の方々との交流が復活しつつあります。また、認知症の啓発イベントに参加され、世界アルツハイマーデーには、利用者の作品を市役所の出入口に展示するなどの啓蒙活動も継続されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の自治会による「子供110番の家」の登録や、街の駅に参加、市役所の啓発イベントに参加することにより、認知症への理解や支援の方法を発信している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の自治会長、民生委員、地域包括センターのケアマネ様、家族代表の方が来てくれており、意見交換をおこない、サービス向上に努めています。	対面での運営推進会議が再開され多方面の参加を得て、利用者や事業所の状況報告だけでなく、地域の高齢者に問題が生じる前に気付くことを目指した、地域へのお手伝いなどが議題に上がるなど、地域密着型サービスならではの貢献が図られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議の報告等で直接担当者様宛に出向き、意見交換や認知症の啓発イベントにも参加し協力関係を築いている	各報告書類の提出や相談、問い合わせに対する回答、情報提供などは迅速に行われている。また、市から認知症ケアの一環として、家族や本人からの相談にのってほしいとの協力を頼まれるなど、協力関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修や介護研修を定期的に社内で行い、資料配布にて職員が介護に対する理解を進めています。	月1回の職員研修では、身体拘束をテーマとした研修も行われ、身体拘束適正化委員会も3カ月単位で行われており、ケース事例を中心に話し合いを重視することで職員の理解と周知を深め、身体拘束を必要としない介護に繋がられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や研修資料配布にて、知識や理解の向上に努めています。また推進会議などで活動内容の報告をし、虐待防止に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見人制度について入り口にパンフレットを掲示し、職員や家族等に情報の提供、共有を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず重要事項説明書の読み合わせ、看取りに関する延命治療の説明を行い、十分に説明の上同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家庭的な施設を目指し、ご利用様が遠慮をしない環境作りを行っている。また、ご家族様が参加しやすいイベントを増やすなどして、交流や意見を聞く機会を増やしている。利用者様の意見を聞く面談なども行っています。	担当職員が月1回のお便りで利用者の様子を伝えることにより家族からの反応や意見をいただいている。また、来訪の制限が無くなり、利用者家族との面談が増えるので、コミュニケーション技術の研修や記録方法の改善を進められている。	来訪の制限がなくなり、家族との面談が増えることに対して、種々の対応が進められていますが、利用者や家族の思いや本音の汲み取りに繋がることが期待されます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	トップダウンではなく、ボトムアップのできる環境を意識している。また、会議や個人面談などを行う中で、意見交換を行いやすい環境づくりを目指している	ユニット毎の職員会議に加えて、職員からの意見や要望は書面やLINEで思いついたときにすぐ出せる体制が作られており、利用者のケアについては迅速に意見が取り入れられ、個人的な相談等も話しやすい環境が作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職務記述書による職員評価と共に、日々のコミュニケーションの中で、やりがいや向上心を持つように意識している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修資料配布にて職員のスキル向上を目指しています。又会議などで職員が意見を発言しやすい環境を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	営業やテレワーク、イベントにて同業者との交流を深め、意見交換を行っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人や家族から、生活歴や趣味嗜好の聞き取りを十分行い、各職員と情報共有を行っている。又利用者様との面談をおこない生活する中での要望や問題解決にも進めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	認知症介護の専門職として、ご家族様の意見や要望をしっかりと伺い、利用者様の尊厳に注意し信頼されるサービス提供を目指している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者や介護リーダーだけでなく、ケアマネや看護師の意見を参考として、ご家族様に最も適したサービスを検討し提案している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護業務の中でも利用者様と共に行動することにより、ご利用者様にやりがいや生きがいを持つように各職員が意識している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月「生活介護状況表」を送付し、ご利用者様の日々の生活や健康状態を共有できるようにしている。又リモート面会や対面での面会をおこないコミュニケーションの向上をおこなう。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染予防をおこないながら対面面会、リモート面会にて馴染みの方とのコミュニケーションの向上に努めています。	感染防止のための制限がなくなり、家族面会の折に、外出や外食などを、利用者と一緒に楽しめるようになってきており、関係継続の支援がコロナ禍以前の状態に戻つつある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各ご利用者様の残存能力やコミュニケーション能力を考慮しながら、すべてのご利用者様が快適に過ごせるような環境づくりを行っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もお見舞いや面会、電話連絡などを積極的に行うようにしている。また、ご家族や関係者からも相談が行いやすい環境を目指している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	問題行動発生時など、本人本位に考えることにより解決する方針を徹底しています。そのために日々の情報収集や観察を行うよう各職員が意識しています。	散歩や入浴時などを利用して1対1で話を聴き、本音や思いだけでなく、なぜそう思うのかという相手の視点からも聴き取り、記録に残すことで行動の意味を考えるようにされ、出来ることはすぐに対応するなど本人本位の支援に努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時家族様や主治医などから情報を頂き、ケアマネや看護師、リーダーと共に情報収集を行うことを徹底し、各職員と共有するよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人に寄り添った介護を目指し、各利用者様の担当職員が常に新しい情報をアセスメントできるような環境づくりを、情報共有を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りやサービス担当者会議の中で、担当職員や家族の意見を落とし込み、ケアプラン作成につなげています。	利用者担当とケアマネジャー及び他の職員によるカンファレンスが行われ、家族の要望や医師・看護師の意見も反映させた介護計画が作成されている。また介護記録にも介護計画が記され、この支援は計画のどこに沿って行われるのかを意識でき、現場と介護計画の乖離を防ぐ仕組みとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各勤務時間帯での記録の徹底、記録内容の検討は、都度申し送りや会議で行っている。また、申し送りや連絡ノート、ケース会議ノートの活用も意識している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療事業所と契約に続き、訪問歯科と訪問マッサージの契約を行い、家族様やご利用者様のニーズに対応したサービス提供に努めている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会や地域のボランティア様との協力を深めたり、各ご利用者様のニーズに合わせた社会資源の活用を目指している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在までのかかりつけ医、協力病院、訪問診療事業所と、各ご利用者様、ご家族様のニーズに合った適切な医療を受けられる体制を整えている	入居時には、医療機関選択の説明がなされ、大半が提携訪問診療や協力医療機関を選択されている。また、専門医への通院は看護師が状況説明の資料を持って同行するが、必要に応じて家族にも同行してもらうこともあるなど、適切な医療を受けられる支援がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護師と職員間との情報を共有できる環境づくりができています。また、訪問看護や訪問診療等の関係各所との連携強化も行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医・看護師・相談員などとホーム関係者及び、各ご家族様と話し合う機会を設けている。また、入院時等は定期的な直接訪問を心がけている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応の希望は入所時に確認を行い、それを踏まえた医療連携を行っている。また、急変時などは密に連携を取ることで各所との情報共有を図っている	指針と同意書が作成され、終末期に際しては医師や看護師の意見も参考に家族との話し合いを重ね、最適の選択が出来るように支援されているが、近年看取りを希望する方が無い。しかし、看取りには医療機関との多くの連携を必要とするため、体制の強化を進めようとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師や管理者の指導の下、実践や研修を行う機会を増やしている。各職員が経験することにより、実践力の向上を図っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を地震や火災など色々な状況で行っている。また、各地域の実際の災害を教訓に、職員と検討する機会を作っている	年2回の避難訓練が行われると共に、運営推進会議でもアドバイスをもらい、避難場所や職員連絡網を含んだ、火災・地震・風水害の災害対策が作成され市へ提出されている。コロナ禍の影響もあり、地域協力への働きかけは行われていない。なお、水害の危険性は少ない地域である。	避難場所や職員連絡網を含んだ、災害対策が作成され、水害の危険性が少ない地域であることも確認されています。今後、地域への協力の働きかけが期待されます。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各利用者様の性格や生活歴などの情報を各職員が把握し、人格や誇りを損なわない対応を意識している	職員には、利用者の入居前の生活歴や職歴を把握するように指導され、個々の生活パターンの尊重に繋がっている。また、他人に知られたくないことや聞かれたくないことへの配慮がなされると共に、居室への入室時にはノックをするなど、利用者の尊厳とプライバシーが守られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に業務の流れを押し付けることはせず、本人の意思で生活できるよう、声掛けなどを行うよう指導している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のルーティーンはあくまで目安であって、ご利用者様の生活を中心にするように、各リーダー含め指導している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的なヘアカットを含め、身だしなみなども気候に合わせたアドバイスを行いながら、本人の意見を最大限尊重している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り食事時の手伝いなどを職員と共にやっている。また、月に2回以上の食事イベントを行い、食事の楽しみを増やしている	食材業者からの材料を基に、職員が交代で調理をし、利用者の好みに配慮した食事が提供されている。月2回の食事イベントでは、お楽しみメニューとして、普段とは違う食材や献立で4種類から2種類を選んでいただくなど、多様性を楽しんでいただく料理が提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の指導に基づいた食事の提供と日々の観察によりこまめな食事形態の変更などを行い、健康に配慮した支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科による口腔ケアに加え、先生や衛生士による口腔ケアの指導を定期的に行うことにより、職員の技術や意識の向上を図っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、排泄パターンを把握したうえで、看護師やケアマネと共に適切な支援ができるよう心掛けている。また本人のADLを様子を見ながら対応を検討しています。	日中は、トイレでの排泄を原則とし、尿意や便意が無い場合でも定時誘導でトイレでの排泄を促し、夜間は、各人の状態に合わせた対応が行われている。一時的に動作が低下するような場合でも、ケア方法の検討を重ね、退院後の適切な支援で自立が改善された事例も見受けられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を多く摂取するようにし、散歩等の運動により自然排便を促しているが、うまくいかない場合には看護師への相談をスムーズに行うようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は本人のペースに合わせ、業務中心の入浴にならないよう、コミュニケーションを重視し希望を尊重しながら支援している	週2回、午前中の中の入浴を基本とするも、業務中心の入浴とならないように、気分が乗らない利用者に無理強いすることもなく、タイミングや曜日を変えて入浴していただいている。また、リフト浴により、立位が困難な方にも湯船に浸かっていただく入浴を楽しんでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者の生活リズムが確立されてきている中、夜間不眠時などには、安心させる声掛けや時間を有効に使った支援を心がけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様ごとの薬の説明書ファイルを作成し、必要に応じていつでも確認できる環境にしている。また、看護師や薬剤師との連携を強化している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人一人の嗜好や希望を職員が把握し、各利用者様に適切な楽しみや日課を行い、張り合いのある生活ができるよう、支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車椅子の利用者様が多くなる中、散歩や外出イベントに積極的に参加するように努め、地域への交流を行いながら外出を行っている	外出制限が解け、花見に行ったり、地域のイベントに参加することを積極的に進めているが、高齢化に伴い外出の困難な方も増えたので、近隣の散歩や野菜の栽培、ウッドデッキで外気浴を行う他、事業所内に手作りの鳥居を作って、お参りの気分を演出するなどの工夫が行われている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様との連携にて、可能な利用者様への金銭管理を支援している。また、買い物と一緒に参加するなどの機会を作っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話を使用することができる。また、年賀状も毎年ご利用者様と共に記入している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備担当により、季節感のある環境整備を心がけている。また、定期的な清掃により混乱や刺激を取り除く努力をしている	ユニットごとに季節の装飾や催しの写真が飾られ、季節の変化が感じられる快適な共用空間が作られている。また、毎週日曜日は環境整備の日とし、職員が手分けして、車いすの整備なども含めた環境整備が利用者の混乱や刺激にならないように、注意を払って行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士のテーブル配置に気を使いながら、快適な日常を過ごせるよう心掛けている。また、生活導線も各利用者様に考慮した配置を考えている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ストーブなど危険性のあるものを除き、基本的に物品の持ち込みは自由のため、本人や家族と相談しながら各居室の配置を行っている	危険でない限り、使い慣れた家具や日用品、趣味の物などを持ち込んでいただいている方や余分のものを置かずにご過ごしていただいている方、個別の対応で転倒の防止のための居室整備をされている方など、利用者の状況に合わせた安全で居心地の良い居室が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各利用者の能力を把握し、常に安全に配慮した導線や環境づくりを目指している		

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム五感の里 本庄早稲田

目標達成計画

作成日: 令和5年12月7日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	利用者様・家族様から頂いた意見で、日常生活で利用者様が日々の生活で不安・不満に思う事への察知に対する職員コミュニケーション不足。	職員から利用者様だけでなく、家族様も思う不安・不満などを解消しADLの向上。	職員全体に利用者様が気軽に会話できるような環境をつくる。(定期的な会話の時間を設ける) また職員から利用者様に積極的に話しかけ、利用者様の思い、状況把握などに努める。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。